

どんびま

2006年7月6日発行

発行者 花の湖農業小学校

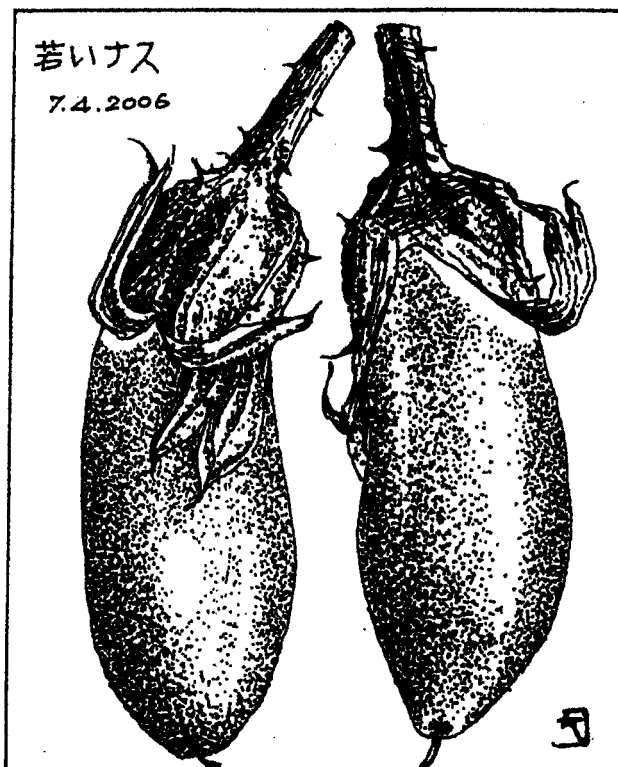
アイヌ (2)

アイヌ民族は文字をもたなかった。民族の歴史も教訓もしきたりも、すべて口伝えで語り継がれてきた。

日本の古代史は、弥生人（大陸からの渡来人）が、縄文人（アイヌなど土着民）を征服していった歴史だと勝手な解釈をしているが、明治以降の北海道においても、倭人の開拓で土地を奪われただけでなく、本土の文化、暮らし方に染まって、親から子への言い伝えばかりか、その言葉さえ忘れられようとしている。

今、私たち日本人も、大事なものを忘れかけてはいないか。

(草)



7月授業日のご案内

- 日程 7月16日(日)
- 受付 9:00～9:30
- 始めの会 9:30～9:40
- 授業(畑仕事) 9:40～11:30
- 昼食 11:30～13:00
- 授業 13:00～
- キャンプの相談
- カブトムシの運動会
- 終わりの会 15:00～15:15

- 服装 作業のできる服装
- 持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具、買い物袋、箸、食器、スプーン
- 昼食 カレーライス等

☆カブトムシは育ってますが。運動会をしますので持ってきて下さい。

●締め切り 7月10日(厳守)

- 問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内総太郎)
- TEL 0573-75-2109 (花の湖自然公園管理棟) 当日のみ

～6月の農小レポート～

野菜がたくさんとれたよ

前日からの雨が朝までのこったが、農小に先生、スタッフが集まりだした頃には上がってきた。

今月の朝の遊びの時間は焼きあがった炭焼き窯の見学という予定だった。ところが、土曜日は降り出した雨のために材料の竹を割りかけのまま作業を中断して、農小課外授業の炭焼きはできなかったの、予定とは違って作りかけの窯を観ることとなった。しかしこの方が窯の構造や材料の詰め方が見えて、かえって良かったのでは。

《収穫》

雨で軟らかくなっている畑に大勢が入ると、土をこねて固めてしまうからと、先生方の忠告で手渡し方式で野菜の収穫をすることになった。

レタス・サニーレタス・ハクサイを取って上の広場に運ぶ。ニンジン先生・スタッフですぐり、ダイコンは子ども達がぬいて運んだ。集めた野菜は生徒数プラス非農家のスタッフの数に分けられてお持ち帰りになった。

《昼食》

収穫後の畑の仕事の傍ら、何人かのお母さん達に朴葉寿司作りにご協力を願った。そのうち、子どもさんたちも加わって、にぎやかなうちにたくさんの寿司ができあがった。寿司の具材は、地元産の山萮（フキ）・淡竹（ハチク）・シイタケ・ササゲ・錦糸玉子、山椒の他、鮭の酢じめ・マグロのフレークと紅生姜。見た目も綺麗で美味しかった。何枚もお代わりをした。

午後は、お茶摘みと紙漉きを2グループずつ交替してやった。

《お茶摘み・お茶もみ》

お茶摘みは自然公園内の茶藪（垣根）を分け合って摘んだ。今年は芽吹きが悪く量は少なかったが、その一部で、家庭でできるお茶の加工の実演と体験をした。一般に生茶葉を蒸すのと炒るのと二つの方法があるが、今回は炒る方法で。炒った葉はムシロの上で素早く揉む。自然乾燥の後の火入れの解説もしてもらった。

持ち帰った生葉は飲みましたか？食べましたか？美味しい飲み方食べ方をぜひ紹介してください。

《紙漉き》

一方、はがき作りは4グループの加藤みどりさんに講師になってもらい、O.B.の三谷さん、松下さんたちにも補佐をお願いして、分かりやすく楽しい紙漉きになった。

農小の周りで摘んだ花や草などを漉き込んだり、各自さまざまな工夫がみられ、個性的なはがきが出来上がった。時間的に最終乾燥は家でやってもらうケースが多かった。

みんなの手作りはがきが遠くへ行ったお友達や、親しい人たちを喜ばすことになれば嬉しいです。

～あぼ兄の百姓ばなし～ あぼ兄の朝めし

6月は食育の月間、毎月19日は食育の日と内閣府が決めている。今月の百姓ばなしのテーマは食育に決めていたが、なかなか書けないでいた。困っていたところ、6月30日朝日新聞朝刊総合3ページに「朝食抜き傾向、赤ちゃんにも。1～3歳の1割、母も欠食がち」の見出しにびっくりした。

『母親が「毎日食べる」場合は欠食のある乳幼児は6%だが、「ほとんど食べない」では29.8%にのぼった。就寝時刻との関連では、午後8時前に寝る乳幼児で欠食のあるのは、2.9%だったが、10時台は13.8%、12時以降は50%だった。朝起きられないことが食欲不振や朝食の時間のなさにつながっているとみられる。』とあった。

国は食育基本法を決め、岐阜県では全国に先駆けて食育基本条例が今年の4月施行した。その目的は「健全な心と身体」「豊かな人間形成」としてあり、その中には地域の伝統料理、食と農を結ぶ農業体験、親と子の和食文化講座など農業と深い関係からなる22条になっている。

具体的には、朝ごはんを食べない子が増えている。腹がへってはやる気が出ないとか、好き嫌いなどいわないで栄養のバランスを考える。無理なダイエットをしていないか、食べ物の安全について、又、食べ物がどこで作られているか、外国から輸入された食べ物が60%にもなっているがこれでよいのか。食べ物を残していないかなどとなっている。

今なぜ食育なんだろう。特に成長期には、生活のみだれは、食生活のみだれとなり、栄養のバランスのみだれにつながり、心のバランスもくずれると「きれいな子」をつくりだすことにもなるからだ。

農小の6月の昼食は朴葉ずしだった。朴葉ずしは、県の代表的な伝統食になっている。その他、自分たちの食べるものを、自分たちで作るなど農小の活動は食育そのもののようだ。あぼ兄は県和食文化推進員でもあり、子どもたちのために、食育の大切さを訴え、普及に力を入れたい。

そこで、あぼ兄の朝の時間帯を紹介してみよう。

4時30分起床、事務的なことを片付け、5時安楽農園に出勤。きゅうり、ブロッコリーなど収穫、直売所へ走る。特にスティックブロッコリーはお客さんが待っていてくれるので1日もサボれない。

7時頃には昨夜のアルコールは完全消化、朝食の内容といえば、朝収穫したときの折れたダイコンのおろし、生卵と味噌汁、ごはんの簡単な食事だが待ちきれない。

あぼ兄には朝食抜きなどとうてい考えられない。

8月キャンプの申し込みについて

8月の授業はキャンプです。桜の湖オートキャンプ場の予約のこともあり、今月の授業日の出欠と一緒に、キャンプの参加申し込みをいただきたいと思います。

必ず、7月10日までに返信下さい。(今年は農小でキャンプ場の貸切というわけにはいかないなので、急がせてすみませんがご協力下さい)

農小なら「たった一日で豆ができる」

4グループ 加藤弘之

6月の農小。朝、小雨が降っていたが、午後から初夏の日差しが戻った。

おかげで息子の大陸は“熱中症”になってしまった。

野菜の収穫や草刈りが終わった頃、炭焼き準備中のスタッフから声をかけられて大陸と一緒に竹割りを手伝ったのが原因だ。

竹は農小スタッフの安江学さんこと通称マナちゃんの竹藪から前日に切り出したものだ。メンバーは小林さん（以下銷ちゃん）の指示で農小の安保校長、スタッフの富田さんの他に、銷ちゃん率いる炭焼き集団「小町好房」の面々に大陸も加わった。

竹藪でも銷ちゃんは車椅子から皆に指示を出す。「1年目の若い竹は切るな」とか、「枝の払い方はこうだ」と、なにかとうるさい・・・いや的確な指示を出す。

その竹を初夏の日差しの中で、大陸は一日中ひたすら割っていた。

まだ、竹割り道具（下図）は彼の手には大きく危なげでこちなかったが、遊び半分ではない真剣な顔だったから任せておいた。

彼は農小のおやつの「ほう菜餅」に目もくれず、もくもくと、切って、割ってを繰り返していた。

まるで、竹割りロボットになったように、同じ作業を熱中して繰り返していた、その姿があまりにも真剣だから“竹割り熱中症”だと笑ってしまった。

終わりの会が始まるまで“熱中症”は治らなかったが、きこちなかった道具の扱いは様になっていた。

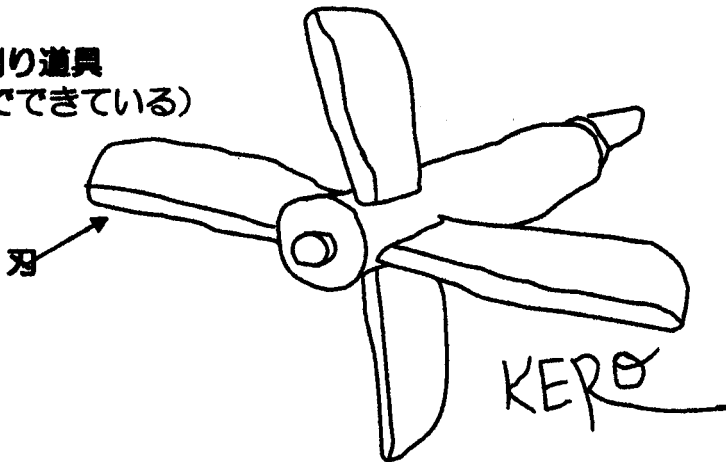
このまま続けると本当の熱中症になられては困ると、半ば強制的に作業を止めさせて、ようやく軍手を外した彼の手にはノコギリでできた小さな赤い豆ができていた。

道具の扱いを充分説明しなかったが、どうやら彼は体で覚えたようだ。

額の汗をぬぐう彼の顔に「充実と満足」が漂う。

竹割りのため、お茶の葉の収穫はできなかったが農小で「たった一日で豆ができた」体験は彼にとって大きな大きな収穫であったに違いない。

竹割り道具
(鉄でできている)



細い竹は四枚刃、太い竹は六枚刃の道具を使うと竹は均等に割れる。